



人生にはムダな経験などない

一人の人間にも多彩な顔や個性があるものです。自分自身を振り返ってみても、年齢と経験によって形成されていったことがよく分かります。幼稚園の頃はかなりヤンチャで、友だち同士の喧嘩の仲裁に入っても、気がつけば自分中心の喧嘩になっていたと、母からそう聞かれました。小学生の6年間は絵画教室に通い、絵と工作など創作するのが大好きな子でした。中学時代はスポーツ少年でバスケットボール部に所属し、汗と涙、先輩後輩の厳しいタテ社会があることも知りました。そして高校時代はと言えばヴォーカルを務めたバンド活動。愛と自由を歌い、練習とライブ・パフォーマンスに明け暮れました。それらのことは今でも私の血となり肉となり生きています。



①INPATではオリジナルのユニフォームを揃えている。いなせな藍染めの法被は、社員の夏の通勤着。②ミーティング風景。

佐藤 俊之さん

株式会社 INPAT (インパット) 代表取締役

若者よ！

塗装の仕事は、YouTuberより面白いゾ！



白石区東米里にあるファクトリー。1階は様々な塗料と用具の資材庫になっている。2階はミーティングルーム。



INPATはすべてのデザインがカッコよく洗練されている。コンテナ一つとってみても綺麗に美観を保っている。

卒業後は大学へは進学せず、バンドの影響が強く、ルックスやファッション、オシャレに興味をもち、札幌市内のメンズブティックに勤務したのが私の職歴の始まりです。接客業としての対応や、人と人とのつながり、コミュニケーションの大切さを学び、転職した輸入家具・雑貨店では店長としてマネジメントを任せられ、人を育てる喜びと人材育成の難

しさの両方を味わいました。独立し、自分でもメンズ店と飲食店を経営しましたが、寝る暇を惜しんで働きまくっていたため無理が祟って、とうとう身体を壊してしまいました。おそらく神様が休む機会を与えてくれたのでしょね。そして「これからどう生きていくか」を考えなさいと。

そのタイミングで、自分の個性や性格に合った仕事は何だろうと考えた時、絵を描くことや創作、モノづくりが好きだったこと。身体を動かす体育系のノリも好きだし、グループや集団でのパフォーマンスに熱中していた姿が、パタパタと日めくりを捲るように甦り「そうだ！建築塗装をはじめよう」となりました。

実は親戚に塗装業を営む人が多く、学生の頃、夏休みを利用してあちこちで楽しくアルバイトをさせてもらっていたのです。シーラーやマスキングの要領も手が覚えていました。父も塗装職人でしたが、鉄骨や橋梁を専門としていたため、継ぐのではなく、一から自分で起業しました。それがちょうど30歳の時で、業界としてはかなり遅いデビューでしたが、真っ直ぐ近道を行くより、多少まわり道してきて良かったと思っっています。なぜなら過去に得た経験がこの仕事に存分に活かされているからです。それと新規参入組だからこそ、従来にない新しい発想で挑戦できます。とかく業界につきまもの3K「きつい」「汚い」「危険」、塗装業の



INPATの塗装施工例 札幌市西区西町のマンション



企業理念(哲学) 奇想点晴〜直感と創造

※奇想天外・画笔と脳髓から

カッコよくデザインとCI導入

INPATの社名の由来や意味もよく聞かれます。私の好きな言葉「直感」を意味するインスピレーションInspirationの単語から一文字ずつ取ってInpat。その文字を並べ替えると職業を表すPaintとなり、ネーミングとしてはピタリでした。

トートバッグなどをつくり、自分たちで各アイテムを愛用しています。こんな塗装会社はこれまでになかったと思いますが、若い人たちに注目してもらうためには、これくらい徹底しなければアピールになりません。ホームページやSNSでの発信にも力を入れ、高校生を対象とした企業説明会、職業体験などでも人気を集め、進路指導の先生も「まさか子どもたちがこれほど塗装会社に食いつくとは思わなかった」と言い、驚きを隠せませんでした。

付加価値の高い特殊塗装

INPATには一・二級建築塗装技師が複数在籍し、それぞれの技術や経験、個性を活かしながら他の職人さんとも協力し合い、より良い仕上がりとなるよう作業をしています。建築塗装は住宅やマンション、ビ

ル、商業施設、公共建築などの建物に文字通り塗装を行うのが仕事です。通常は依頼者であるクライアント様や利用者のユーザー様と打ち合わせをしながら希望に沿った方向性を決定し、素材や用途、デザインなどに合わせて適切な塗料・工法などを提案し、確かな技術と高品質な仕上がりを約束しています。

塗装の役割は保護、美観、機能の付与と大きく分けて3つあります。保護は素材を錆や劣化、摩耗などから守り、美観は色彩や意匠により美しさを趣きを演出し付加価値を効果的に作りあげ、機能は耐熱、耐火、結露防止、抗菌対策などを施した特別な塗料で機能を付与します。もちろん、そのすべての分野で力を発揮しますが、お客さまからINPATに指名がかかる理由は2つあります。

一つは業界用語ですが「出戻り」がほとんどないことです。これは施工が終わった後、手直しに戻って来

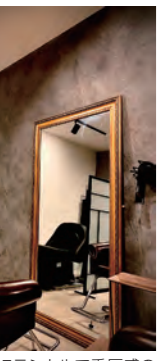
ないという意味です。そしてもう一つは、先に挙げた美観に付加価値をつくりあげることに向けた特殊塗装に強い会社だからです。ファンデーション工法とも呼ばれますが、例えば打ち放ったコンクリート風の塗装や錆、経年劣化による色のカスレ、ヨゴれなどのエイジング効果をリアルに表現し、意匠性に富んだデザインを得意としています。既成の枠に囚われない発想力で、新素材やオリジナル用具も研究し続けています。

塗装の仕事は面白いゾ！

人と人とのつながりを大切にし、ここまで来ることができましたが、友人や仲間と話をする時、決まって出てくる言葉があります。

「とにかく人が足りない」。人材不足はどの業種でも起こっています。こんな話も聞こえてきました。面接しても「残業イヤ。週休2日じゃないとイヤ。疲れるのイヤ。苦勞するのはもっとイヤ」。この際、中小企業の経営者を代表して言わせてもらいますが、ふざけるな！

ある生命保険会社が行っているアンケート調査によれば、ここ数年、男子高校生がやりたい職業の第1位と2位にYouTuberが繰り返し入ってくるそうです。若いみなさん、この社会にはバーチャルな世界よりもっともっと熱くなれて、面白い仕事がいっぱいあります。その一つが塗装業であると確信しています。



クラシカルで重厚感のある特殊塗装 美容室
アート志向の外壁塗装



https://www.inpat.jp

Company Profile

株式会社 INPAT (インパット) 北海道知事許可(般-4)石第22987号
札幌市厚別区上野幌3条6丁目12-25 ☎011-874-1811 📠011-896-1134
■事業内容／一般建築塗装工事、各種吹付け塗装、特殊塗装(ファンデーション工法等)、シーリング工事、防水工事など
■資本金／500万円 ■社員数／6人 ■ファクトリー(資材庫)／札幌市白石区東米里2040-128

Personal Profile

佐藤 俊之さん
1977(昭和52)年3月15日生まれ。札幌市出身。1995(平成7)年、札幌市内のアパレル店に勤務。輸入家具・雑貨店に転職後、大通でアパレル店・すすきの飲食店を経営。2002(平成14)年、佐藤塗装店を創業。2016(平成28)年法人化し、(株)INPATを設立すると同時に代表取締役就任。